

令和元年度水道事業会計決算について

水道は市民生活に直結するライフラインであり、都市の発展を支えるインフラとしても重要な役割を担っています。

長期的な人口減少期に入った今、厳しい経営環境が続きますが、安全で良質な水道水を安定してお届けできるよう水道施設の耐震化をさらに進め、給水サービスの向上に努めていきます。

給水状況

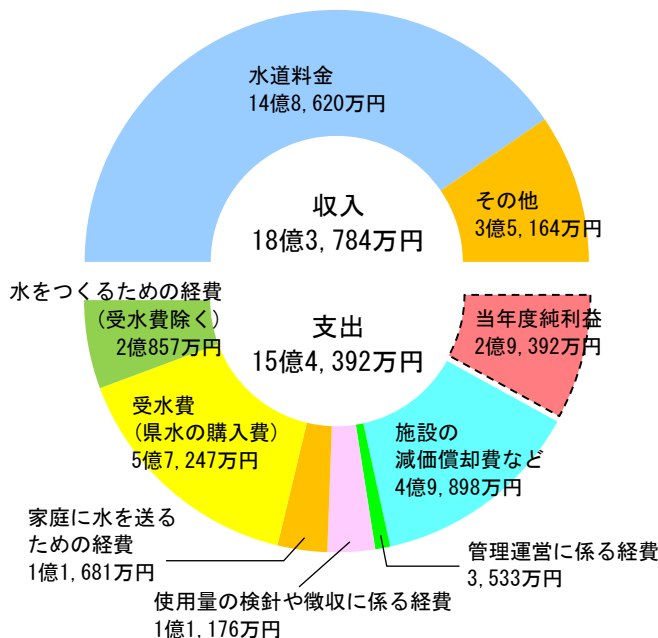
昨年度と比べ、水を送った件数は 91 件増えましたが、年間の給水量は 6 万 1,958m³ 減り、水を使った人数は 612 人減りました。

工場用などの大口需要家への給水量が減少したうえに、節水意識の向上やライフスタイルの変化などにより一般家庭への給水量が引き続き減少しており、この傾向は今後も続くものと思われま

項目	令和元年度	平成30年度	増減	比率(%)
行政区域内人口(人) A	76,929	77,552	△ 623	99.2
給水区域内人口(人) B	76,856	77,474	△ 618	99.2
年度末給水人口(人) C	76,812	77,424	△ 612	99.2
年度末給水件数(件)	34,078	33,987	91	100.3
行政区域内普及率(%) C/A	99.8	99.8	0	100.0
給水区域内普及率(%) C/B	99.9	99.9	0	100.0
年間給水量(m ³)	9,444,594	9,506,552	△ 61,958	99.3

経営活動に伴う収入と支出（損益収支のため消費税等抜き表示）

収入では、給水量の減少で水道料金が 729 万円減ったことなどにより、総額 18 億 3,784 万円となりました。

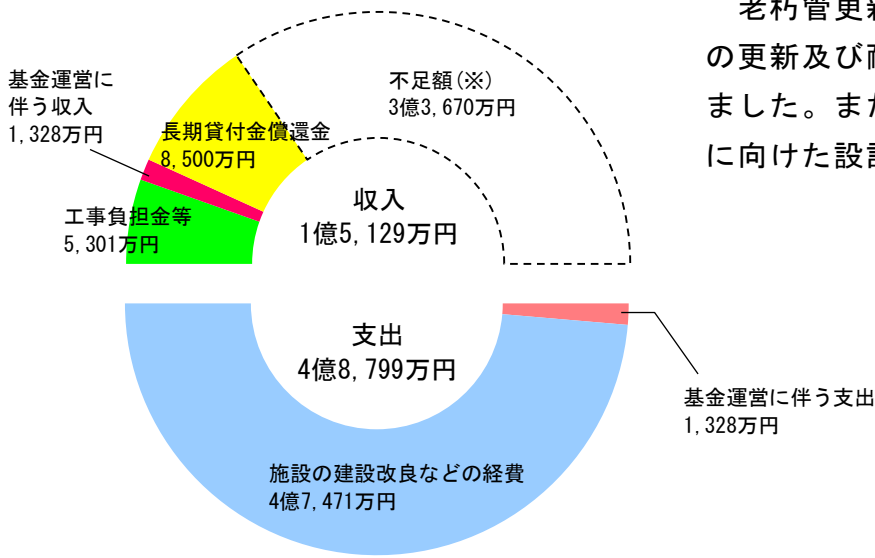


支出では、修繕費が増加しましたが職員給与費などが減少したことにより、総額 15 億 4,392 万円となりました。

その結果、収支は 2 億 9,392 万円の黒字となりました。

なお、本市水道事業は、平成 28 年度に借入金を全て償還し、無借金経営による健全財政を堅持しています。

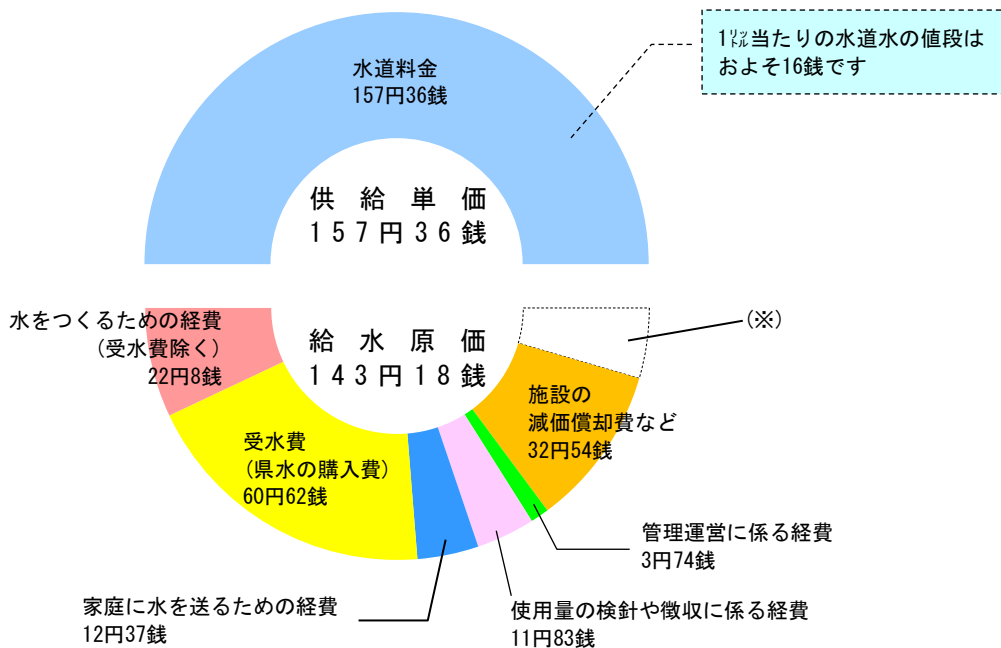
施設整備に要する収入と支出（資本収支のため消費税等込み表示）



老朽管更新工事に併せた主要管路の更新及び耐震化を計画的に実施しました。また、西部浄水場改修工事に向けた設計業務を実施しました。

※不足額は施設の減価償却費などの内部留保資金などで補てんしました。

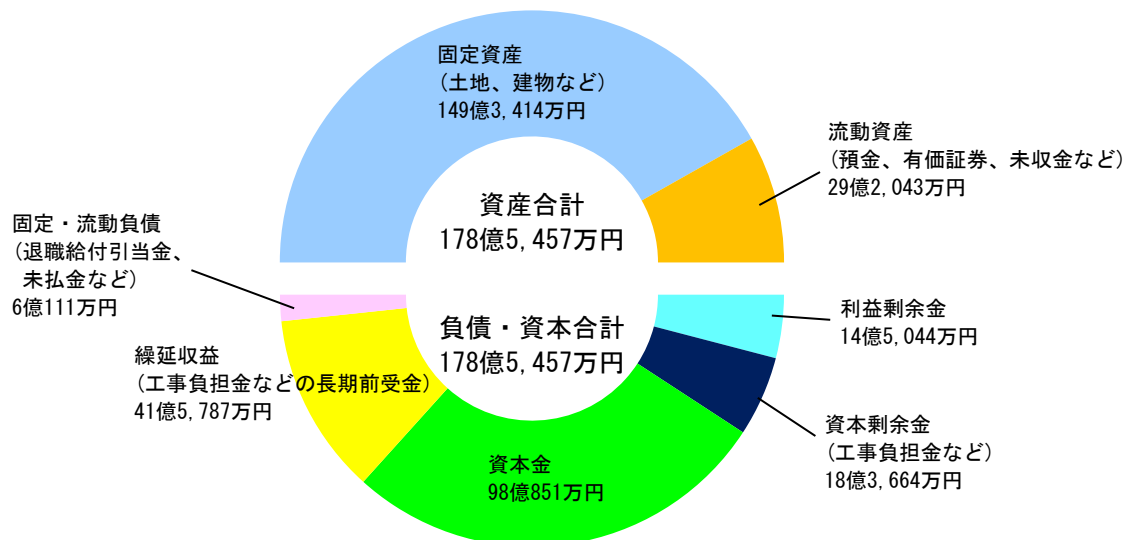
供給単価と給水原価（1m³(=1,000ℓ)当たり、消費税等抜き表示）



1ℓ当たりの水道水の値段はおよそ16銭です

※本年度は供給単価が給水原価を上回り、料金収入で給水に必要な費用が賄われました。

貸借対照表（令和2年3月31日現在）

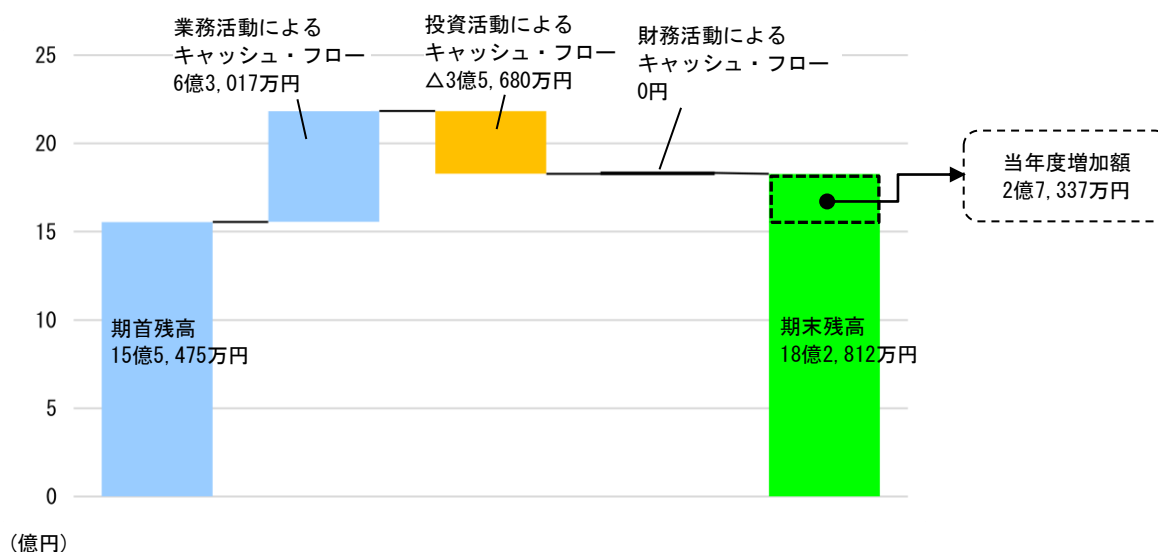


キャッシュ・フロー

キャッシュ・フローは現金（キャッシュ）の流れや増減を把握するものです。

「業務活動」によりキャッシュを増やし、設備投資などの「投資活動」や、借り入れた借金の返済などの「財務活動」を行うことでキャッシュが減少します。

本年度は、2億7,337万円のキャッシュが増加し、本年度末のキャッシュ残高は18億2,812万円となりました。



※業務活動：投資活動及び財務活動以外の通常の事業活動によるもの

※投資活動：固定資産の取得や売却、投資資産の取得や売却など

※財務活動：資金の調達や返済